

はじめに

1989（平成元）年6月30日、B型肝炎は注射針も注射器も換えない杜撰な集団予防接種のため広がったという私たちの研究結果を基に、5人の原告を立て札幌地裁に国の損害賠償を求めた裁判を起こしました。この訴訟は当初、蝦夷地北海道の訴訟として、世の中にはなかなか受け入れられませんでした。しかし、17年の歳月をかけ、2007（平成18）年6月16日最高裁で完全に勝訴しました。

そして、今や法律事務所が肝炎訴訟への参加をテレビで宣伝する時代になりました。

1993（平成5）年7月、新宿から始まった731部隊展が、1994年8月9日から1週間、札幌の「アート・スペース」（展示場）で開催されました。この年の夏は暑い日の連続で、夜も眠れない日が続きました。731部隊展は連日大入り満員で大盛況でした。

札幌の731部隊展の実行委員会は、1993年の春、大河原孝一（1922年3月生、中国帰還者連絡会、現・撫順の奇跡を受け継ぐ会）が中心となり、結成されました。

大河原氏は極めてエネルギッシュな人で、外国旅行、山登りや講演会などで忙しく、なかなか会えない人でした。

B型肝炎訴訟開始当時、筆者は裁判に勝つために、戦前戦後行われてきた予防接種の種類と規模などの歴史を必死で調査していました。

そんな時、たまたま、大河原孝一の「中国で行っていた私たちの犯罪」の講演を聞きました。731部隊のことを知ること、B型肝炎訴訟に役に立つのではないかと思い、731部隊展の実行委員会に参加することにしました。

731部隊のことは、森村誠一が1981（昭和56）年11月に出版した著書『悪魔の飽食』で、有名になっていたので知っていました。この本を読むまでは、我が国の医学会の指導的な立場にある医師たちが何のためらいもなく、人体実験を行っていたなど知りませんでした。大変ショッキングな本でした。

1993年春、実行委員会に入り、会員を増やし、さらにカンパ集めなど忙しい毎日が続きました。

そのようななか、実行委員会のメンバーに医者をも一人でも増やすべく努力をしましたが、医者は増えないばかりか、昔の友人（医者）から「731問題は森村誠一で終わった」と言われる始末でした。

そして、実行委員会で一人の人物と出会います。その人物は、「北海道大学結核研究所」の前所長の高橋義夫（北大、昭和9年卒）の息子です。高橋義夫は1953（昭和28）年から1974（昭和49）年までの期間、北海道大学に勤め、定年退職しています。

彼から聞いた彼の父親の話は次のようなものです。

「父親が、精神の異常を来し、恐れ慄き夜も眠れなくなった」「また、父親は戦前満州の子どもたちの腋窩にBCGの接種をしていた」「葬儀の時には見たこともない立派な車が集まった」などです。

彼はその理由が知りたくて、実行委員会に入会したのです。彼の父が異常を来したのは

退職7年後で、森村誠一の『悪魔の飽食』が出版された直後でした。

高橋義夫の息子の一言がヒントになり、その後、筆者は人生の半分くらいを結核問題と人体実験の謎を解くための研究に費やすこととなります。

結核を予防する唯一の方法はBCG接種と言われています。BCG接種は戦前1942（昭和17）年に開始され、戦後も強制的に行われてきた最大の予防接種です。BCGの結核予防効果について議論する時、いつも文献や教科書に医学的根拠として引用されていたのが『日本学術振興会第8小（結核予防）委員会の報告書』でした。

私はこの原本を、1993（平成5）年8月、札幌医科大学の図書館に頼んで、「財団法人結核予防会」から取り寄せました。この報告書の解説が私の人生最大の仕事になるうなどは、この時には夢にも思いませんでした。

報告書は、1943（昭和18）年8月、財団法人結核予防会から出版された、日本学術振興会第8小（結核予防）委員会の『結核予防接種に関する報告書』です。

日本学術振興会（学振）とは、天皇から5年連続年額30万円を下賜されることになり、これをもとに1932（昭和7）年にできたもので、経済不況からの脱出と富国を目指すことを目的に、すべての研究の促進を図るために作られました。

『結核予防接種に関する報告書』は旧漢字で書かれていましたが、その都度、大河原さんに教えてもらいました。例えば、『海?』読み方は「かいめい」、でその意味はモルモットとなります。

この報告書に掲載されている実験動物・モルモットの体重を100倍すると人の体重になります。さらにBCGの感受性は人の方がモルモットの100倍であることを1933（昭和8）年に出版された『結核殊に肺結核』の中で、今村荒男が書いていました。報告書が人体実験集であることは明らかであり、5000人弱の方が犠牲になっていると思われました。

『結核予防接種に関する報告書』の後半部分には付図として結核菌に対するBCGの効果を判定したおよそ2600人分の解剖所見のヒストグラムが記載されていました。

なお、本書の執筆にあたり、多くの文献を引用しておりますが、当時の文体や表記では読みづらいので現在の言葉に一部変換しております。また、登場する人物の敬称は略させていただきました。

2019年6月27日

美馬聰昭